

◀S·E·L·D·A·A▶

No.14

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付

平成4年3月14日 発行

Sophia English Language Department Alumni Association

ニッセル神父の最終講義

去る1月17日午前11時から、J・ニッセル神父の最終講義が、中央図書館9階の大教室で行なわれた。卒業生、在校生、140余名が聴講する中、講義は、トーマス・アキナスの書簡を中心に、真の【知識】とは何かについて、約1時間、英語で行なわれた。講義の後、質疑応答があり、なぜ日本を任地として選んだか、上智大生気質の今昔、今後の抱負などについて、ユーモアを混じえて、語られた。最後に、花束と拍手の中、“Thank you & Good bye”と言

葉をつまらせながら、上智大学での最後の講義を終えられた。

講義に引き続き、上智会館に場所を移し、先生を囲んで、SELDAA主催の立食パーティーが行なわれ、その席上、松尾学科長より、先生が、上智大学名誉教授に推薦されているむねの報告があった。

先生は、2月中旬から約1ヶ月、アイルランドに旅され、4月から、鹿児島島の純心女子短期大学で、教鞭を執られる予定。



To all the Eigoka Graduates :

I was very happy to see so many graduates attend my "final" lecture at Sophia. I was much more nervous than when I first began to teach. I have now finished my final examinations, done my final packing and am ready for a new career in Kagoshima. But I hope this will not be my final letter, as I will try to write to you at least once a year, as I have done for many years.

I want to thank you for so many things, but if I mentioned all of them, one by one, the list would be endless. So I will just say, in this time of "bashing" that I am grateful for all the "Nissel-backing" that I received. Your loyalty and support made my years at Sophia most pleasant. I wish all of you much success and happiness.

John J. Nissel, S.J.

Kagoshima Immaculate 〒890
Heart College 鹿児島市鶴池町1847
1847 Kamoike-cho, 鹿児島純心女子短期大学
Kagoshima 890
Phone: (0992) 53-2677 Fax: (0992) 54-5247



▲最終講義のあとのパーティー

英語学科 BTF 講座後期報告

英語学科卒業生で、実社会で活躍している人から、英語と社会との関わり、またそれ以上の実社会の生きた講義が聴けると好評の BTF (Back to the Future) 講座後期の報告を概略します。

第 6 回講座 (11月 8 日・15 日)

長窪正寛氏 (昭和48年卒)

テレビ朝日 CNN デイウォッチ・キャスター
TBS ラジオニュース・コメンテーター

ワシントンでの苦学の体験、メーカー勤務、さらに現在はジャーナリストとして活躍する豪快な経歴をバックに幅広く活躍されている体験談からのお話。さらに人生指南にまで及ぶ非常に聞く人を魅了するまさにトークショーに近い熱演で2回にわたる講義をしていただきました。

「会社の中での自分の役割」と「社会人としての SUCCESS」は、自分自身の選択であり、エリートコースをとるかノンエリートコースをとるかはあくまで自分が決めることである。つまり人生観に置き換えてみると自分自身が人生を演出し、「楽しく、自分らしく生きる」ということを語られました。

最後に、「人間やる気になればなんでもできるんだ」の一言には、学生たちも大いに勇気づけられた様子でした。



第 7 回講座 (11月22日)

長谷部真理氏 (昭和63年卒)
同時通訳者

以前勤めていた会社を辞め転職を経験し、その転職が一人の女性にとっていかに意味の大きかったことを披露。その会社では、やはり組織・仕事の分担に限界を感じ、自分は何なのか・自分は何ができるのかを見つめた末、「女性であることは、仕事をすること以上に生き方についていろいろな選択ができる。人生には限界がない」と信じて、現在の職業に就いていることを力強く話されました。自分の技術で仕事をしていくことで、やりがいのある充実した生活を追求することができると、学生たちにも共感を覚えてもらった講義内容でした。

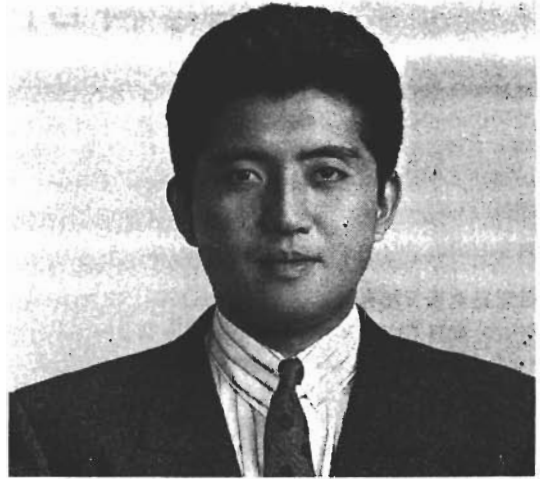


第8回講座（11月29日）

平井卓也氏（昭和55年卒）

西日本放送(株)代表取締役社長

民放業界の中で最年少の社長になり、それなりの覚悟で会社運営をしてきたことを中心に講義をしていただきました。とくに電通に勤めていた時代の経験（情報収集・選択・企画・実施）をベースにマスコミでの先進的経営を目指して頑張っていること。その一例として瀬戸大橋とアメリカのゴールデンゲート・ブリッジと姉妹協定を結んだことなどの内容に、学生たちは大いに興味を引きつけられていた様子でした。上智大学で学んだことは、ものの考え方ができたことで、このことと電通での経験で今の会社を活性化することができたと講義を終えました。



第9回講座（12月13日）

鈴木由香理氏（昭和53年卒）

日本興業銀行・米国委員会兼国際業務部

13年の間、一つの職場で勤務を続けてこられた鈴木氏は、会社において自ら進んで仕事を作り出していくくらいの気持ちで頑張ってこられたがゆえに仕事に充実を感じるとのこと。また、ゲーム感覚で楽しんで仕事をこなしていく様子、さらに、制度とはその人に応じて作られるものとの考え方などを豊かな経験の中から話されました。しかし、結婚と仕事は両立するが、育児と仕事は両立しないと言い切り、子供が生まれてからの生活のリズムと会社のリズムが合わず、大変苦労された様子が具体的なお話から伺えました。

聴講している女子学生にとっては、近い将来の自分自身の問題でもあり、非常に有意義な講義でした。



1992年度 BTF 前期講座

本年度のBTF講座は、4月17日から下記のスケジュールで開催されます。卒業生の皆さんも是非一度聴講してみたいかがでしょうか。

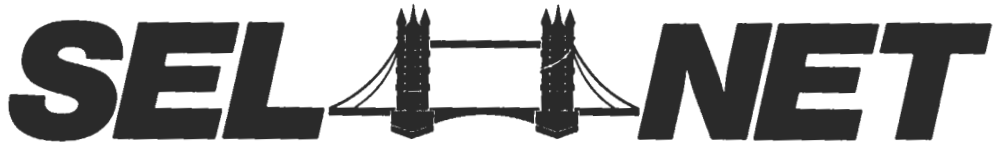
日時：毎週金曜日 13:30～15:00

教室：6号館211号室

講師：栗栖徳雄氏（昭和42年卒）
モントリオール銀行在日代表

石井純子氏（昭和57年卒）
ジョージ・ワシントン大学院ア
メリカ研究科 博士課程在学中

土井真美氏（昭和51年卒）
モスクワ大学にて日本語講師



SELDAA 人材バンクシステム開設のご案内

世はあけて、人材不足。優秀な上智大学英語学科卒業生に対する求人もうなぎ登りのようです。その一方で、英語学科を卒業はしたが持てる能力を十分に発揮できず現在の職場に満足出来ない人や、パートタイムや再就職の口を探している同窓生も沢山いらっしゃるものと思われます。

SELDAA では少しでも会員の皆様のお役に立ち、その存在意義を高めるための活動の一つとして、会員である上智大学英語学科卒業生と在校生のみを対象とした、非常利の人材バンクシステムを設立することに致しました。名付けて SELNET (セルネット)、この4月1日に発足致します。

SELNET の利用方法は次の通りですので、ご利用下さい。

○利用資格

求職者は、上智大学英語学科卒業生あるいは在校生に限定いたします。求人者は、特に資格を問いませんが、SELDAA 常任委員会の審査を合格した個人、会社、団体等とします。

○登録方法

この会報に同封された登録用紙(求職、求人 whichever)に必要事項を記入の上、郵送にて、登録料と共に下記事務局まで返送して下さい。以後、募集用紙が無くなった場合も、事務局までご請求下さい。

〒102 東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室内
SELNET 係宛
FAX: 03-3238-3910

○登録料

求職者は、1件につき2,000円(但し学生は1,000

円)、求人企業は1職種につき20,000円(但し、求人者が個人で、職務内容が非常利の場合は1職種につき10,000円)。下記銀行口座に振込の上、振込伝票のコピーを登録用紙と共に事務局にお送り下さい。事務処理費を差し引いて、年に1度決算し、残額は SELDAA 野口基金に寄付するものとします。なお、登録の有効期間は4ヶ月とします。

さくら銀行 赤坂アークヒルズ支店
普通預金 5172130
口座名義 SELNET

○紹介方法

寄せられた求人、求職者の条件、内容を事務局でパソコンにデータベースとして入力して求職票と求人票に記入された内容を照合し、職種、勤務時間、希望賃金の3項目が大体合致した場合、次の要領でご紹介します。

- (1)求人側には、求職票の太枠内の項目(氏名、性別、年齢、連絡先の電話番号)。
- (2)求職側には、求人票の全項目。

ご紹介後の交渉は、全て当事者同士で行なって下さい。お手数ですが、採用が決定したら必ず SELNET 事務局にご一報下さい。

○SELNET の責任範囲

当業務は、あくまで非常利の紹介業務ですので、紹介の結果によるあらゆる問題は、当事者同志が善意に基いて解決するものとします。SELDAA では一切の責任は負いかねますので、了承の上、ご利用下さい。また、紹介するかしないかについての全ての判断は、SELDAA 常任委員会が行なうものとします。

卒業生便り

ボン・ポヤージュ ニューカレドニア

NHK 考査室 (衛星放送担当)
小林康司 (昭和34年卒)

なぜ英語学科を卒業したのに“ボン・ポヤージュ”なのか？ 勿論ニューカレドニアが現在フランス領だからだと言うだけではない。実は明治25年(1892)に熊本県から600人がニューカレドニアに移住して今年ちょうど100周年を迎えるのだが、果たして100年前に600人が出航する際、見送りの人達から“ボン・ポヤージュ”と激励されたかどうか、はなはだ疑問を感じるからである。

私がニューカレドニアと、初めて関わりをもったのは去年の事である。66日間の入院の最中で、見舞いに来て下さった村山素夫先輩が「退院したら一度ニューカレドニアに静養に行って来たらどうかね」とおっしゃった。その通り行った結果、転地療養に最高によかったのか、帰国後はすこぶる体調がよく、今では自分でも信じられない位に元気になった。そうしたら今年の6月に「日本人移民100年祭」の行事を開催すると聞いたのでボランティアとして何かお役に立ちたいということになった次第だ。

100年余り前のニューカレドニアでは、既にニッケルの産出が続けられ世界の需要がどんどん増えていた。そこで日本に鉱山労働者の派遣を求められた訳で当時の榎本外務大臣は、貧しい農家のためにもってこいの話だとして早速、乗り気になって急遽手配をしたようだ。記録によると話が決まって出発まで



1か月もなかったらしい。当然、現地の事情の説明が十分におこなわれなかった事は容易に推察出来るし、ましてや、フランス語の研修なんて全くされなかったと想像できる。

先日600人の移民の総監督を務められた小野弥一さんの曾孫に当たる小野健次ご夫妻に会ってお話を聞いた。移民労働者達からの突き上げなどとニッケル鉱山会社の間にたまって想像を絶する苦労があったようだ。また大正時代まで続いた契約移民5000人余りの人たちからも、かなり犠牲者が出ており、更に契約終了後も現地に残った人達は“敵せい国民”として酷い扱いを受けたようだ。これらの人達のためにも「100年祭記念行事」を成功させたい。

ボン・ポヤージュ！

THE 一世 ——あるパイオニアの肖像

読売新聞経済部次長
南条 俊二 (昭和44年卒)

昨年の暮れに、初めて訳本を出した。発行部数1千万部になんなんとする本紙には、デスクワークに入る前はこそこそ毎日のように記事を書いていたのだが、本となると、「たかが5千部」と思っても、また別の感慨があるものである。書店に入ると、自分の本が置いてあるか、どこに置いてあるか、平積み



になっているか、自分の子供のように心配になる。

この訳本「THE 一世——あるバイオニアの肖像」は、昨年5月、米国務省の招待でアメリカを一月取材旅行した際、カリフォルニア州サクラメントでの取材で世話になった日系二世の夫人に勧められ、帰国後、上智 OG の方や姪、家内の友人などの協力を受け完成させた。

タイトルでご想像がつくと思うが、明治時代に日本からアメリカ本土に渡り、現在の日系米人の基礎を作った人々のドキュメント。ごく普通の日本の男女が、ある場合は新天地を求めて、またある場合は一旗揚げた故郷に錦を飾ることを夢見て、太平洋を渡り、苦勞の末、財を成し、ようやく生活が軌道に乗りかけた矢先に太平洋戦争にぶつかり、財産を失い、収容所に閉じ込められ、戦後ゼロ同然で再出発するまでが語られている。

二世の人々によるチームが数十人の一世にインタビューしてまとめたもので、淡々とした肉声の語り口は、決して小説のようにドラマチックではないが真実のもつ説得力がある。圧倒的に豊かな自由の地、アメリカへの憧れ。現実との落差、厳しい差別。耐え切れずに落伍していく人々を横目に、必死に働き続け、競争と協調を通して、やがてアメリカ社会に認められていく…。

経済摩擦が激しさを増す日米関係、重大な国内問題になりつつある外国人労働者に対する対応を考える上でも、学ぶ点が多くある。インタビューが行われてから既に十年近く経ち、存命の一世もわずかと聞く。彼等の残した歴史の教訓が生かせるよう、努力していきたいと思う。

新英語学科長誕生

4月1日より新しい英語学科長が誕生いたします。新英語学科長は草深武教授です。同先生は故野口啓介先生の薫陶を受けた英語学科卒業生です。専門は英国を中心とした西欧思想研究であり、その意味でも野口先生並の重厚な学者です。また学生に対する思いやりにかけては、誰に勝るとも劣らないという温かい人物です。

2年間の任期を務めました松尾は、1年間のサバティカル（研究のための有給休暇）をいただく予定

でしたが、取り止めて学事部長に就任します。学事部というのは、全学のカリキュラムの管理や学生の入学・卒業の管理責任を持つところです。授業も2クラス（米国史概説・アメリカ社会特講）だけが担当します。

新学科長ともども今後ともよろしくお願い致します。

松尾式之

1992年度 SELDAA 定例総会開催のお知らせ

会則により、本年も年次定例総会を下記の要領で開催致します。この2年間、私達の英語学科の学科長として SELDAA の運営に多大なご協力をいただき、また SELDAA との協力のもとに BTF 講座の開始、その他幾つかの新機軸を学科の運営に実現させて在校生、卒業生からもその功績を評価された松尾式之教授が、4月1日付をもって学事部長に転進されることになりました。そこで本年の総会では、松尾前学科長にお別れのご挨拶をいただくとともに、代って新しく英語学科長に就任される草深武教授にも SELDAA の名誉会長としてご出席いただき、親しくお話を伺いたいと思います。

また総会の議事終了後は、皆様良くご存知のエバレット神父がこの度、京都の平安女子短大より戻られて、近い将来また上智大学のコミュニティ・カレッジで教壇に立たれることになりましたので、エバレット神父にもお越しいただいて、皆で楽しいお話の輪を作りたいと思います。是非、多くの皆様のご出席をお待ちしております。

日時： 4月18日(土)
総会： 午後3時～4時
パーティ：午後4時より

場所： 上智大学会館5階第6会議室
会費： 3,000円（ご家族同伴の方は4,000円）

上智大学英語学科同窓会常任委員の変更

4月1日より英語学科長に草深武教授が就任されることから、常任委員の構成を下記のように変更致します。

名誉会長 草深 武 (昭和42卒)

今まで名誉会長として活躍されてきました松尾式之教授は、常任委員としてこれからも参加していただきます。

また、女性セミナー担当の日下より子さんは、ご主人の転勤によりオーストラリア在住となりましたので後任に座間由美子さん(昭和43卒)に常任委員会に加わっていただきました。さらに今まで委員として活躍していただいております吉田研作氏と竹内裕子氏は、3月31日をもって任期を終了しました。よってメンバーは総勢11名の構成になります。

SELDAA 会員名簿完成

本会の事業の一つであります3年毎に発行の平成3年版会員名簿が完成、会報 No.14と共に会費を納入されている方にお送りいたします。ソフィア会事務局のご協力をいただき、平成3年末現在のソフィア会のデータに英語学科同窓会の最新のデータを加えたもので作成しました。その際、皆様からご自身の変更や消息不明の方についての情報をお寄せいただき、ありがとうございました。

住所その他の変更は英語学科同窓会事務局にご連絡ください。本会事務局からソフィア会事務局に連絡しますので、ソフィア会のデータが変更されます。その際、宛名ラベルの会員番号をお書きください。

会費お支払いのお願い

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費で運営されています。事務局一同は、より一層の活動内容の充実と拡大を図ってゆく所存です。同窓会の円滑な運営のため、まだ会費の未納の方は、同封の振替用紙で最寄りの郵便局(青色の用紙)または銀行(赤色の用紙)より是非お支払いいただくようお願いいたします。尚、卒業年度を記入してください。卒業年がありませんと、帳簿記入の事務処理がはかどりません。尚、今まで一度も会費をお支払いいただけていない方は、入会金も併せてお支払い願います。

入会金：1,000円

年会費：2,000円(できれば3年分お願いします)

<会費お支払い状況>

封筒に貼付してあります宛名ラベルの右上部をご覧ください。

朱書きの数字は、その年度分までの会費が支払われている。数字の後に(1/2)とあるのはその年度は年会費1/2(¥1,000のみ)が支払われている、

朱書きで“入”とあれば、入会金は支払われているが、1991年度分の会費が支払われていない、

「朱書きのない」のは、今まで一度も入会金も会費もお支払いいただけていないことを、それぞれ表しています。

事務局長